

令和7年度

檳淵小学校
 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○複式学級において、ICTを効果的に活用し、基礎的・基本的な知識技能の定着を図る。
 ○主体的に学習に取り組む児童育成をめざした、家庭学習習慣の確立。

校長

吉原 稔祐

学力向上推進員

今井 美玖

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

校内研修や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○真面目に学習に取り組み、自分の思いや考えを伝えることができる児童が増えてきている。 ●基本的な計算でも、やや正確さに欠けたり、時間がかかったりする児童や、漢字の習得が難しい児童も見られる。また、現在学習中の内容に、既習の知識を十分に活用できていない児童が見られる。	・複式学級においても、基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることができる。 ・さまざまな文章を読む場面において、読み違いや読み飛ばし、思い込みをせずに正しく読み取ることができる。 ・語彙力を増やし、より適切な言葉を用いて話したり、書いたりすることができる。	・漢字や計算の復習を繰り返し行うと同時にタブレットを効果的に活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・教科学習指導だけでなく、日々の音読指導や日記指導も大切にし、適切な言葉を使い、既習の漢字を正しく使えるようにする。 ・徳島新聞「阿波っ子タイムズ」を活用し、正確に読む力や必要な情報を取り出す力を習得していく。	・基礎基本をより定着させるために単元ごとの漢字小テストを週2回以上行う。		

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の思いや考えを学級内だけでなく、全校集会や他校との交流の場でも、表現できるようになってきている。 ●自分の考えを筋道を立てて話したり、まとめて文章で表現したりすることに課題がある。	・筋道を立てて自分の考えを明確にしてまとめて発表したり、文章に書いて表現したり、表現方法を選んで発信することができる。 ・タブレットを効果的に使い、自分の思いや考えを文章に書いて、相手に分かりやすく表現することができる。	・やまも班の異年齢集団活動や集会活動を工夫することで、話し合い活動が充実するようにする。 ・ホワイトボードを活用したり、タブレットを活用したり、表現方法を選んで自分の考え等を説明する力をさらに伸ばす。 ・自分の考えを伝える場面では、分かりやすく話ができるように意識させる。 ・タブレットを活用し、児童同士で互いの意見などの情報交換ができるようにする。	・自分の考えをまとめたものを全体で伝えたり、説明し合ったりして対話的な活動を取り入れる。		

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○社会科や総合的な学習の時間の調べ学習等では、タブレットを用いて意欲的に自ら学習を進めることができる児童が多い。 ●進んで課題を解決しようとする力や、疑問に思ったことについて自分の力で解決しようとする力をつける必要がある。	・課題や自主学習に積極的に取り組み、さまざまな課題に対して、調べた情報を比較したり、関連付けたりしながら、解決していくことができる。 ・興味や疑問を持ったことに関する本を学校や家庭で読むなど、進んで読書をする習慣を身に付けていく。	・児童の興味関心を見極め、主体的に学習に取り組める授業を工夫していく。 ・AIドリルを活用するとともに、他学年の自主学習の様子を紹介、掲示する等、校内全体の家庭学習への意欲を高める。 ・早く登校した時や授業中、休み時間等のすきま読書を進め、読書の習慣化を図る。 ・昨年度同様、市立図書館の団体貸し出しを活用し、読書環境を整えるとともに、週末の家庭読書を定着させていく。	・他者の意見をよく聞き、自分の考えや思いと比べて考えを深めることができるように聞く姿勢を育む。		